

行った主な活動

仕上げの摘果

梨の仕上げの摘果を行った。6月の摘果は、実の形や色、大きさ、枝との付き方などを見て、最終的に収穫する実を選ぶ大事な段階である。ただ実を落とすだけでなく、どれを残すと枝や木全体にとって負担が少なく、良い実が育つかという視点が求められ、知識と経験の両方が必要だと感じた。気温が高く、日差しも強い中での作業となったが、集中力を切らさず取り組んだ。



ヒメボクトウ対策の薬剤散布

梨の木に発生する害虫ヒメボクトウへの対策として、薬剤散布を実施した。ヒメボクトウは、幹や枝に小さな穴を開けて中に潜り込み、内部を食い荒らす習性がある。これにより、枝が弱ったり枯れたりするだけでなく、最悪の場合は木全体がダメージを受け、来年以降の収量や品質にも影響を及ぼす。今回は、ノズルの長いスプレーを使用し、穴の奥に潜む幼虫に薬剤が届くよう慎重に噴射した。穴の数や位置を確認しながら、特に被害が集中している部分は重点的に処理した。



活動を行った感想など

仕上げの摘果では、見落としがちな黒星病や虫食いの跡、軸折れにつながりそうな実の位置など、気をつけるポイントが多く、判断に迷うこともあった。また、摘果の判断によって今後の生育や収穫作業のしやすさにも影響が出るため、責任の重い作業だと感じた。

ヒメボクトウの対策では、小さな穴を見逃さずに処理する集中力と根気が必要だと感じた。見た目では被害の深刻さが分かりにくいこともあり、発見が遅れると被害が広がるリスクもあるため、日頃から木全体をよく観察することの大切さを実感した。

今後の目標など

本格的な収穫作業が目前に迫っているため、日々の作業で疲れを溜めすぎず、安定した作業効率を保てるよう意識していきたい。また、病虫害については被害が出る前に気づける観察力を高め、木や果実へのダメージを最小限に抑えられるよう努めたい。ヒメボクトウのように、今年だけでなく来年以降にも影響する害虫への対策は特に重要なので、日常的な点検や早期発見を意識した動きを習慣づけていこうと思う。

